

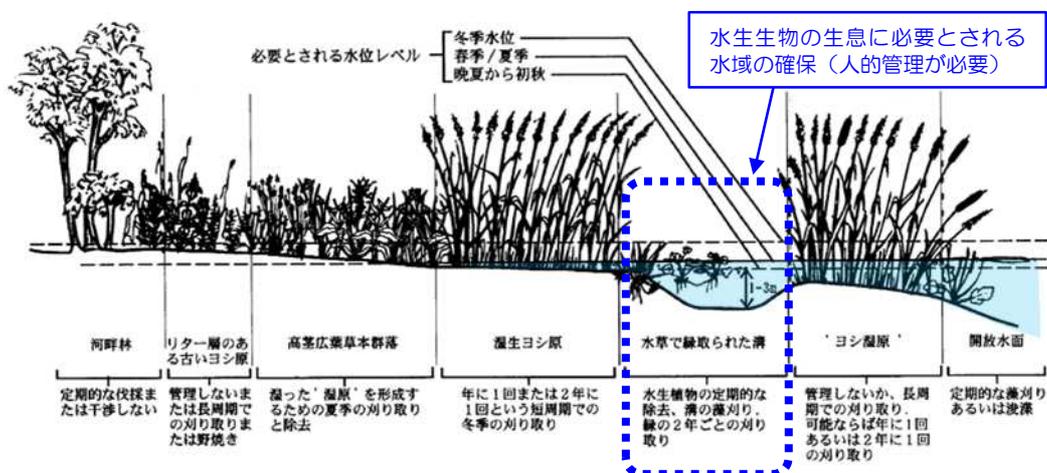
## 事業内容

### (1) 泥炭形成植物群落の陸地化の拡大を防ぐヤナギ等の伐採

泥炭形成植物群落の面積が減少する要因である樹木等による陸地化の拡大を防ぎ、適切な植生遷移（エコトーン）のための対策を講じます。

#### 【主な事業】

- ・ヤナギ伐採（陸地化の拡大防止）
- ・泥炭形成植物群落の正確な面積調査の実施と適切な維持管理



ヨシ原で見られるハビタットにおいて遷移を管理するために使う主な技術（日本財団図書館）

#### ■ 藪牟田池の植生遷移（エコトーン）について

サイクリングロードに沿ってヤナギの木が池に向かって広がっており、池の中は水位が高く、自然に枯れていきますが、サイクリングロード付近は、ヤナギの木が泥炭形成植物群落の上に落葉し、陸地化が拡大し、泥炭形成植物群落の面積減少の一因となっています。

### (2) 営農と生態系を共存させる水位調整

藪牟田池の多くの動植物は、水位の影響を受けており、高い水位は、泥炭形成植物群落の面積が減少する要因となっています。

一方、藪牟田池の水は、下流域の約30haの水田に農業用水として利用されており、6月上旬時の開門時には十分な水量の確保が必要です。

今後は、生態系と営農の共存が可能な水位調整及び防災重点ため池としての今後の流域治水への対応も含め、自動水位観測システムを導入して藪牟田池の水位を連続的に監視するとともに、水利組合等の関係団体と協力して、農業用水門と洪水吐の2つの調整方法を踏まえた最適な手法による水位調整に取り組みます。

#### 【主な事業】

- ・自動水位観測システム導入
- ・営農と生態系を共存させる水位調整